

リズム遊び

(1)

保育要領の中にあるリズム遊びは、随分以前からこれを實際保育の中に取り入れて居られる保育所・幼稚園も數多くありになる様ですが、地方の保育理論の講習會等に出かけますと、保育内容の中で一番分り難いのはリズム遊びであるというをよく聞かれます。又單に保育所保育・幼稚園教諭の方だけでなく小學校教諭の方からも時々御質問を受けますので、リズム遊びに就いてのつまらない私の考えを書いて見たいと思ひます。

リズム遊びはリズムの一部でありますから、リズム全體の事について書き、特にリズム遊びを詳しく説明することに致しましょう。

保育要領にあるリズムは幼児達の音楽遊戲を云うのであります、本來はリズムでなくてリズムズというべきものであります、今まで音楽遊戲のことを保育所、幼稚園でリズムという言葉で言い慣らして参りましたし、今更音楽遊戲とか

厚生省保育課 副 島 ハ マ

リズムズという言葉に換えないで、從來のリズムという言葉そのまゝ一つの保育用語として使用したのであります。

乳幼児は本來外部からの刺激に對して反射的に反應を表わすもので、殊に音楽に對しては、これが著しいものであります。この反射作用は學齡期になればも早くなりしますので、これも乳幼児の時に適當な指導をしてその萌芽を伸して置く必要があると思ひます。先日山梨縣保育講習會でリズムの實際をして居る時、窓の外に赤坊（滿一歳半程度）を抱いた人がのぞきに來て、赤坊を窓の所に腰かけさせて見て居ました。私は一つの曲を弾き保母さん達はそれを如何に表現するか非常に苦心している最中に、その赤坊は兩手と首でリズムをとり、曲の感じをよく表現しているのを見てまことに感心しました。幼児達が大人のつまらない批評や厳しい教育にゆがめられなければ、そして又子供が平和な雰囲気の中に心して生活し遊んで居る時音楽を聞けば、子供は音楽の感じそのまゝを、その反應を身體に表現するものであります。そして保育者はそのチャンスをつかんでリズムを指導することが必要

でめり、又適切なのであります。大人の場合であれば音楽を聞いてもそれを自分の情緒と藝術観に訴え知能的に消化して満足を感じ味うのですが、満足した氣持を顔の表情で表はしても身體で表はすといふことばめつたにしないことで、舞踊家や特に藝術的才能のある者は別として常識的にいうと狂人じみて見えることでしょう。

リズム遊びは音楽を身體で表現する事でありますから、外部から受けるリズムを肉體で表はし精神的に満足するのでありまして、フレイベルの謂ゆる「外的生命を内的生命の中に取り入れ内的生命を外的生命に結びつけ内外の生命を一つにする本能」というのはこのリズムに於いても發達されると思ひます。即ちリズムにより聽覺が發達し聞いたことを運動神經で表現する能力が養成されるのであります。

幼兒時代は心理學的に言つても凡ての事柄が未分化的でありますから、保育内容も小學校の學科の様にははつきりと分化されない方が望ましく、特に音楽と體育は別個のものでなく一つのものとして扱はれることが望ましいのであります。そしてその爲にはリズムは最も適量なものと云えましよう。

次にリズムの種類に就いて申しますと、

一、唱歌遊び

二、律動遊戲

三、リズム遊び

の三つが擧げられます。唱歌遊びは、今迄振付遊戲という言葉で保育所・幼稚園で親しまれて來たものでありまして、

振付遊戲の種類は何千何百となくあり、その歴史も言葉の内容をそのまゝ手眞似で表現した様なもの、了庵がものを言ふ時の様な表現法に似た振付の時代から舞臺向の、人に見せる爲の遊戲の様な華やかな時代を経て、現在は幼兒の心身の發達によさはしい幼兒らしき表現の振付遊戲が澤山できてゐる事はまことに御同慶の至りであり、振付して下さる先生に對しては満腔の敬意を表するわけでありますが、保育所・幼稚園では出來れば子供の興味から湧き出た子供自身の創造による振付の遊戲がもつとり入れられる事が望ましいのであります。と申しますのは、幼兒過の生活の中には、東京、北海道、鹿児島というような夫々違つた地區、又都會、農村、漁村等の違つた環境の中で、異つた遊びが行はれるのですから、その地方色も豊かな遊びがこうした保育内容に取り入れられ、保育内容にとり入れられることによつて、地方地方の幼兒達の遊びが向上し洗練されることが望ましいのであります。又幼兒時代にある創造的創作的才能が唱歌遊びに於いても伸ばされる事が望ましいのです。

幼兒達にとつて自分達の考えが保育内容の唱歌遊びに取り入れられることは、どんなに自信と向上心の啓發に役立つこととでしょう。それによつて更に創作的に又自發活動的な性格が作り上げられて行くのであります。幼兒達で振り付をさせることは難しくても多少先生の指導が行はれれば仲々面白いものが出來るのであります。

第二は律動遊戲であります。律動遊戲と云うのは幼兒體

操、小さなダンス等、言葉のない曲に動作を振付たものでも、これも幼児達の工夫を入れる餘地を作りたいたいものです。そして一つの纏まつた形としてその曲に振付られた物を律動遊戯という事が出来ましよう。

(11)

リズムの第三番目はリズム遊びです。リズム遊びの中には二種類の方法があります。第一は子供達に曲を聞かせるその曲の感じを生供達に表現させる方法、第二は子供達に一つの思想があつて、その思想を音楽遊戯的に表現するために先生が曲を弾いてやる方法であります。

第一の方法は子供達に先ず曲を聞かせて、その曲の感じを充分味はさせてから、先ず拍手でもつてその拍子をとらせたり、曲に合せて行進させたりして後、子供達の自由表現に移るなり、或は始めから子供達に感じるまゝを表現する様にさせます。大人に曲を聞かせますと、その曲に對して軽快な曲とか莊嚴な重々しい曲とか批評しますが、子供達の場合は輕快な曲を聞くと蝶々が飛んでいる所とか、小人が踊っているとか言い、重々しい曲に對してはリュックを背負つて人が歩いていたりとか、サンタクロースが重い荷物を持つて來るところとか、象が歩いている等という幼児の生活の周圍のものになぞらえたり、想像の世界から具體的に連想したりして發言するのであります。そうしたら先生はすぐ「それでは蝶々になつて見ましよう。誰の蝶々が上手かしら」と云つて、幼児

達各自の自由表現によつて蝶々を踊らせるのであります。若しこれが大人ですと先ず表現法を色々と考えます。

講習會の時等は他の先生の眞似をしたりして、會場の皆が一様な表現になつてしまふことがあります。子供達ですと指導の仕方によつては、随分色々の表現が出来るのであります。保育者は決して表現法を教えないで子供達が蝶々から受けた感じをありのまま表現させ、音楽のリズム拍子が巧く合つていない場合だけ注意して、その他は全部幼児の自由表現に任せます。念の爲に、も一度繰り返します。決して表現の仕方を先に教えてはなりません。

例えば「皆さん蝶々を踊りましよう。先生が曲を弾いて上げましよう。蝶々はこうして踊るのですよ。」と云つてその手振り、足振りを子供に教える事は子供達の創造的、藝術的な芽をもぎとつてしまうことでありまして、親切なように見えても決して親切ではありません。そして同じ曲で子供達が蝶々とか、人が踊っているとか色々な發言をした場合、その發言した事を次々にその子供を主體として子供達みんなが一緒に踊る事が望ましいのです。大人が先に立つて踊ることも如何かと思はれますのは、大人の場合は曲に對して表象的な感じを受け、その動作も舞踊又はダンスの様な表現法が多いのであります。幼児の場合は幼児の發言する通り現實的な事物の表現をして行き方が違つている場合が多く、幼児は幼児の表現をすることこそ望ましいのであります。

次にリズム遊びの第二の方法であります。第一の方法は

子供達にリズム遊びを通して表現しようとする一つの主題が最初にあつて、この主題の下にリズム遊びをするのであります。例えば昨日山に落葉拾ひに行つたとします。子供達みんなが保育所、幼稚園の御門から並んで道を歩き山に登り、自由に遊んでいる間に秋風に吹かれて紅葉や銀杏の葉が散つたり、又舞い上つたりする有様を観察し、又團栗や木の實等を拾つたりしてお辨當を喰べて保育所、幼稚園に歸つて來たとします。その翌日は多分子供達の會話は落葉拾ひ、團栗拾ひでもちきりであり、或幼児は昨日拾つて來た落葉を藁で通して首飾を作つたり、或幼児は葉つばの版をしたり、團栗でコマを作つたりして暫く製作遊びが續くことでしょう。又一方では、

「先生昨日はお山にいつたネー」

「葉つばが落ちていたネー」

「どんぐり拾つたネー」

等々の幼児達とのお話し合いが行われ、その中昨日山で先生が葉つばが散るのを見ながら歌つて聞かした

「散るよ、散るよ、木の葉が散るよ」

という落葉の歌を歌い始めたのをきつかげに、皆がピアノの側によつて來るでしょう。その中幼児の一人が、

「先生又お山へ行きましたよ」

と言つたら、

「そうね、それでは今先生がピアノをいきますから、皆さん昨日のように御山登りを致しましょうよ」

と云つて自由に子供達に手をつながせ、

「遊戯室の向うの隅つこがお山ですよ。さあ行きましょう」

と云つてマーチを弾きますと、幼児達はマーチに合せて歩き、一定の場所に來たら、

「こゝからお山よ。お山に登りましょう」

と云つて山登りの曲を弾きます。やがて昨日山の上に着いて眺めた景色を語り合つた後、背の高い幼児を木になぞらえ、外の子供の中から數人の希望者を選んで葉つばにして木につながらせ、外に四、五人の子供を秋風にして、先生が秋風の曲を弾き、風になつた子供達が兩手を左右に流しながら小走りに木の周圍を歩き廻ります。

風の曲が済むと落葉の曲を弾き、それに合せて昨日観察した様な形で葉つばが次々に木から離れて散つたり、散つた葉が又飛び立つたり致します。やがて曲が終ると葉つばは土の上(床)に靜に眠ります。次に、

「風が吹いたから澤山の團栗が落ちたでしょうだから拾ひましょう」

と云つて木の實拾ひの曲を弾いて他の希望の幼児達が團栗を拾ひに行くのです。それから又皆列を作つて保育所・幼稚園に歸つて來る様な遊びをします。

こうしたリズム遊びは季節季節によつて變る自然現象、動物界、又社會現象の中より主題が擇ばれ色々な方法によつて違ふのであります。

リズム遊びは幼児達が主題を擇ぶか、又は幼児達の生活の

中から保育者が發見し、幼児達の自由意思と幼児の興味によつて自由な活動が行はれるという所に、教育的價値があるのでありまして、同じ曲を聞いても、其の時々に新しい工夫がなされ、新しい表現がなされることが望ましさ、その點では振付遊戯や律動遊戯の持たない教育的要素が含まれていると言ふことが出来ましよう。

大人がリズムを勉強する場合には、理論的に表現法を考へるために、非常に難しく、又その表現の仕方がどうしても象的にならぬのであります。幼児にさせるリズム遊びは決して理論を教へたり、表現法を教へたりせず、幼児が直接に事物を觀察してその感じを表現する様に指導しなければなりません。幼児のリズム遊びはあく迄舞踊家を作るのを目的とするものでなく、勿論將來舞踊家になるものが居れば、その藝術的才能を伸してやることは結構ですが、一般の幼児の爲には聽覺を發達させ、音楽により感受したものをも身體を以つて表現する運動神經の發達と、美的表現の才能を伸ばすことに重點を置き、リズム遊びが幼児一同の楽しい自發活動によつて行はれることこそ、リズム遊びの本來の姿であると思はれます。

願わくば皆様の熱意ある御研究により保育所、幼稚園に於けるリズム遊びが科學的に、心理學的により深く研究され理想的な形にと向上して行き、幼児達を通して次代の日本文化に役立ちますように念願して筆を擱きます。

〔二八頁から〕

かゝこれれず、色を塗つておまゝごとの道具等の様に實際生活に活用出来ますので面白いと思ひます。

木工は、金鋸、鋸、錐等の様なものを揃えておき、人形のお道具にしる、汽車遊びの汽車にしる、大きい物をさせ度いのですが、今はまだそれだけの材木も自由にする事が出来ませんので、お店をつくる時の骨組だの、甲板などを古い板や箱を利用してする程度にしておりますが、もつと／＼やり度いと思つております。又、保育室に私達の手で作れる程度の必要な物があれば、一生懸命つくつてやり、先生のつくつてゐるのを見てゐるだけでも、よいのではないかと思ひます。

とにかく先生が楽しそうに熱心に作つてゐる程度を、子供達が見るといふ事は非常に大切な事だと思ひます。

その他、その季節々々の自然物落葉、木の實、豆のさや等なるべく利用して又變つた面白味を得させ度いと思つております。

わからぬまゝに、ありのまゝ申上げました。よろしく御指導下さいませ。

X

X